



仙台市科学館 蒲生調査レポート 速報版

No.115 〒981-0903 仙台市青葉区台原森林公園4番1号
 仙台市科学館 事業係
 2016.5.15 TEL:022-276-2201 FAX:022-276-2204
<http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/>

干潟内と河口域の大きさ・数

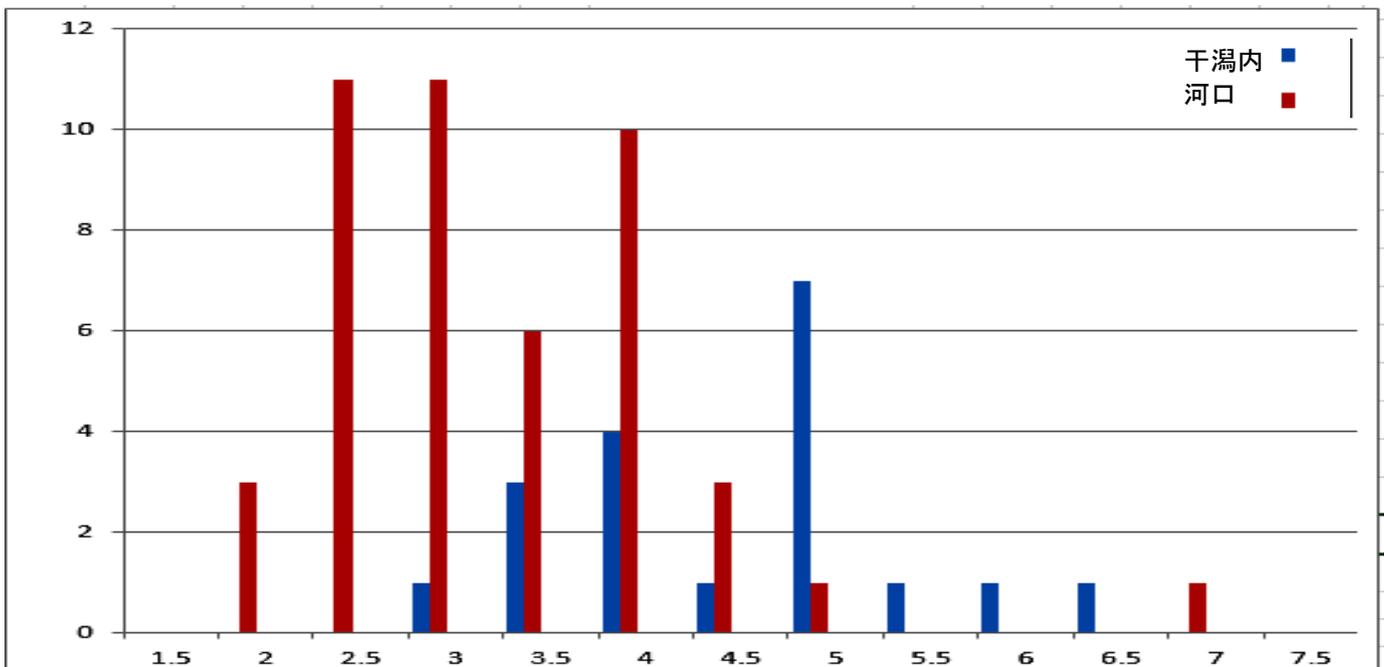
■干潟内の稚魚は大きく、数が少ない

先月に引き続き、イシガレイ稚魚を採集し成長の様子を調査した。先月の調査では七北田川河口域、蒲生干潟内の両方で多くの稚魚を採集することができた。しかし、今回の調査では河口域46匹に対し、干潟内で採集できたのは19匹であった。

大きさは、Table.1に示した平均全長のように順調に成長していると考えられる。ただし干潟内の方が河口域よりも大型であるという点は変わっていない。Fig.1は採集した稚魚の大きさと数を表したグラフであるが、河口域には4cm程度までの稚魚が多く生息し、干潟内にはそれ以上の個体が多く生息する傾向が認められる (Fig.2,3)。これは、沖合から河口域へと到達した稚魚が、そこで成長するにしたがってさらに干潟内へと移動していくことを示しているのではないだろうか。

	河口域	干潟内
4月の採集数	40匹	45匹
5月の採集数	46匹	19匹
4月の平均全長	2.10cm	2.34cm
5月の平均全長	3.33cm	4.58cm

(Table.1 採集数と平均全長)



(Fig.1 稚魚の大きさと採集数)



(Fig.2 干潟内の稚魚 全長6.5cm)



(Fig.3 河口域の稚魚 全長2cm)

※「左ヒラメの右カレイ」といって、カレイは右側に目があると言われるが、イシガレイには反対の個体もしばしば見られる。

(佐藤 賢治)